

## 科学者委員会学協会連携分科会（第24期・第3回）議事要旨

1 日 時 平成30年7月25日（水）10時00分～12時00分

2 場 所 日本学術会議 6-A(1)会議室（6階）

3 出席者

三成美保委員長、米田雅子副委員長、  
宮崎恒二委員、若尾政希委員、望月真弓委員、山口周委員、  
池田駿介委員、川口慎介委員、  
日本学術協力財団 谷口常務理事（オブザーバー）  
若手アカデミー 埴淵知哉氏（オブザーバー）

4 配布資料

資料1 前回議事要旨案  
資料2 学協会法人化問題検討小委員会関係資料  
資料3 協力学術研究団体へのアンケート（案）  
資料4 協力学術研究団体の指定要件等に関する資料  
資料5 ジャーナル問題に関する資料

5 議題

（1）前回議事要旨案について

・前回の議事要旨（案）について、事前確認は終了しているが、追加の意見があれば事務局へ連絡することとされた。

（2）学協会法人化問題検討小委員会関係資料

米田副委員長、池田委員及び財団谷口理事から説明が行われた後、意見交換が行われた。

<説明概要>

・日本学術協力財団 学協会運営支援委員会と実質合同開催を予定している。  
・第1回は8月8日（水）13：00～の予定である。  
・12月に公益法人法制施行10年になるので、そのタイミングでの分科会からの提言発出を目指して、骨子案を作成していきたい。  
・素案等は小委員会で企画等するが、分科会としてシンポジウムの開催・提言の発出をお願いしたい。  
・提言等に当たっては、学術団体ならではの視点で提言をお願いしたい。

（3）協力学術研究団体へのアンケート（案）について

埴淵氏等説明が行われた後、意見交換が行われた。説明（概要）及び委員から

出された意見は、以下の通り。

<説明概要>

- ・学協会に対するアンケートに加え、大学及び研究機関・研究者個人に対する総合的なアンケートを考えている。項目については、共通部分・異なる部分を出して作成してきたい。8～9月に検討、秋以降に実施を想定している。かなり大きなアンケートになるため、学協会連携分科会・男女共同参画分科会合同で小分科会を立ち上げ、そこでアンケート案の作成等を行いたい。
- ・資料3は若手アカデミー学術の未来検討分科会で検討している学会に対してのアンケートの素案（項目）である。若手の研究環境を改善する、という目的を持っており、提言するためのエビデンスとして調査を考えている。

<委員から出された意見>

- ・組織形態や財務状況についても聞く必要があるのではないか。
- ・会員種別についても正会員の他にフェローがある学会もあると思うので、整理が必要である。
- ・学会名鑑で調査済の情報については、改めて調査する必要はないかもしれないが、今回のアンケートとの紐づけが難しい可能性もある。項目の選択式であれば、今回のアンケートにも入れておいても問題ないと思う。
- ・年齢構成の情報は非常に重要だが、把握していない学会もあり、回答してもらうのは困難なのではないか。ただ、年齢という要素が必要だ、ということを確認してもらうことは重要だと思う。
- ・今回の目的とは異なるかもしれないが、所属機関が学会についてどう考えているか、についても調査できればいい。
- ・名前を出して回答してもらうのか、匿名で回答してもらうのか。名前を出して回答することが難しい場合も多いのではないか。
- ・名前は無くても、どの学会に所属しているのか、の紐づけができるようにした方が良いのではないのか。ただ、どこまで分析するのか、目的が何なのか、によるのかもしれない。（学会の現状と長の意識のずれを把握するのであれば、学会ごとに突き合わせる必要がある。一方、一般的なレベルで学会の長がどういう意識を持っているか、ということであれば学会名を特定しなくても構わない）
- ・今回のアンケートの大きな特徴は、学会の長になるようなシニア層と若手の間の意識のずれを浮き彫りにすることである。その特徴を重視すると、学会ごとに紐づけする必要があるが、この点については引き続き検討したい。
- ・協力学術研究団体対象の調査だと分野が広く、考え方や抱えている課題も様々である。訴えたいことが訴えられない可能性があるのではないか。
- ・学術会議として行う場合、個別の問題ではなく、学術活動を支える組織としての全体の学会に対する調査を行った方が良い。
- ・総合的なアンケートにする場合、設問の数を絞る必要がある（10分で回答

できる程度に)。

- ・学会が置かれている状況について、海外との比較が小分科会でできればよいと思う。

(4) 協力学術研究団体の指定要件について

事務局から説明が行われた。本件については、次回以降審議することとなった。

(5) ジャーナル問題について

三成委員長から説明が行われた。本件については、次回又は次々回以降に審議することとなった。

(6) その他

- ・次回は提言案及び協力学術研究団体の指定要件について、を議題に9月頃に開催する予定となった。
- ・次回又は次々回にジャーナル問題について山口委員及び宮崎委員が説明する予定となった。
- ・次回の開催予定は未定。

以上